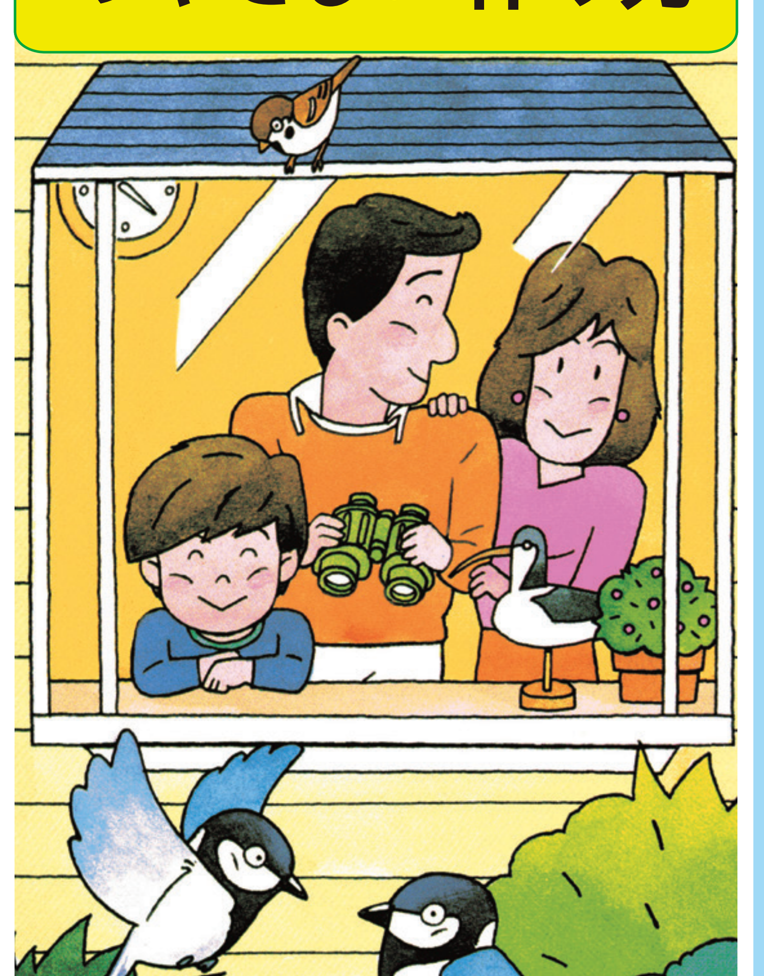
エサ台・水場・巣箱のやさしい作り方



水と生きる SUNTORY

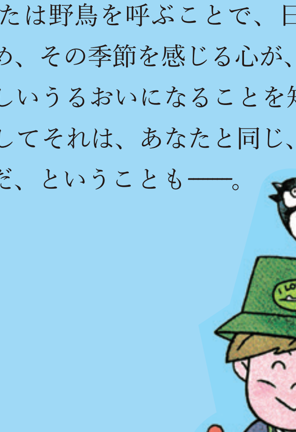
野鳥は かならず やってくる

あなたのまわりを、見てください。1本の木、小さな草むら、かわいい池、土のあるところ…みんな、自然です。その小さな自然を大事にして、野鳥たちが安心して遊べるところ、住めるところ、食べるところを、もっとふやしてあげませんか。—水場を作り、エサ台を置き、巣箱をかけ、実のなる木を植えてあげる……やがてそこには、いろいろな野鳥がやってきます。庭はもちろんのこと、学校の庭のすみっこでも、工場の敷地や、ビルの植え込みでも、ベランダや屋上でも野鳥を呼ぶことができます。

そこは、野鳥ばかりでなく、いろいろな昆虫たちが生活する場所にもなります。植物を昆虫が食べ、昆虫や植物の実を食べに野鳥がくる…そこはもう、豊かなひとつの自然界。都会の、少なくなってしまった自然を、少しずつでも、もとにもどすことができるというわけです。

朝、小鳥の声で目がさめる。ウグイスのさえずりで春のおとずれを知る。ツグミの姿で冬の近いことがわかる。昆虫はいつの間にか冬ごもりをしてしまった……。

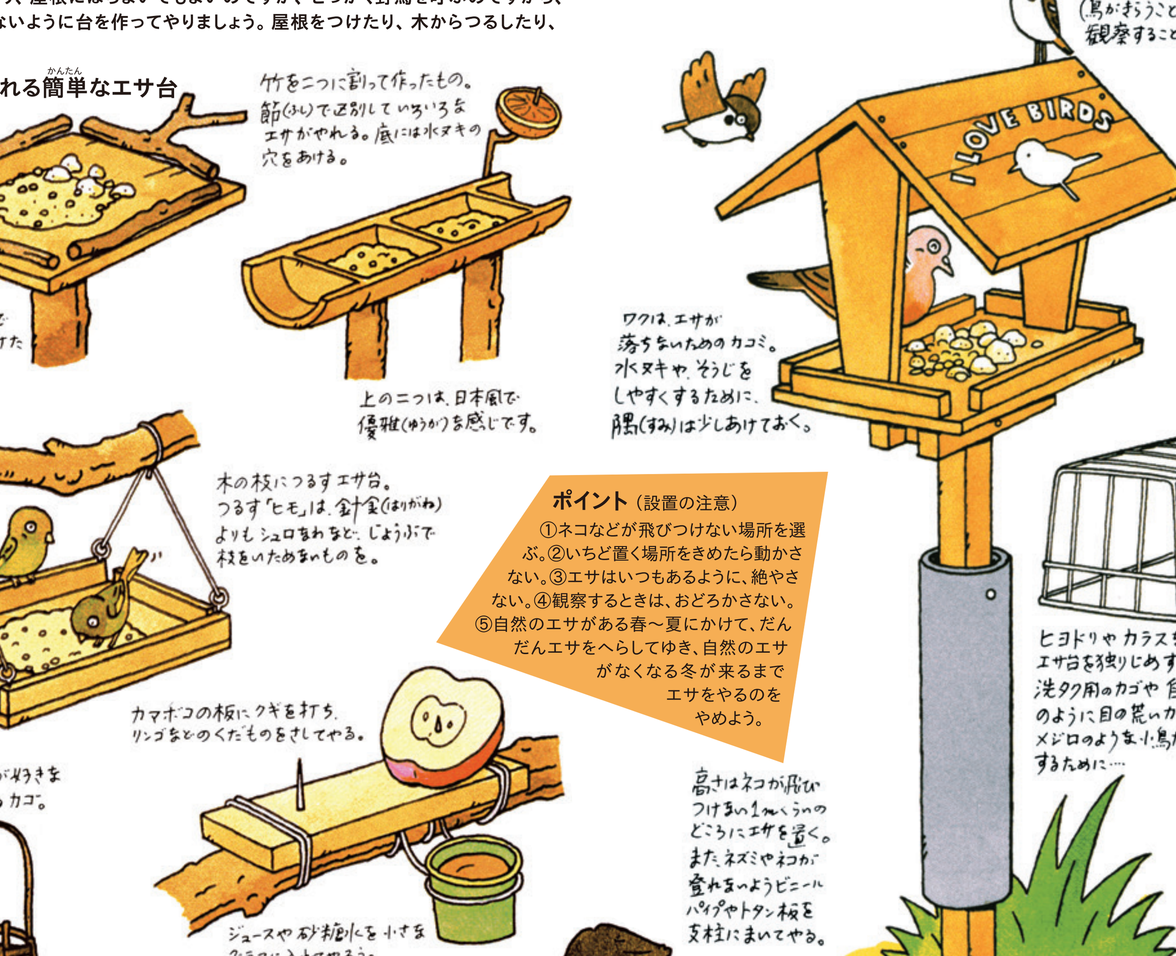
——あなたは野鳥を呼ぶことで、日本の四季をしっかりと見つめ、その季節を感じる心が、生きていくうえに、すばらしいうるおいになることを知るにちがいありません。そしてそれは、あなたと同じ、命のいとなみのすばらしさだ、ということも——。



エサ台のつくりかた

エサは晩秋から春まで、つまり自然のエサの少ない時期だけにやりましょう。地面にそのまま置いてやったり、屋根にばらまいてもよいのですが、せっかく野鳥を呼ぶのですから、エサが飛び散らないように台を作ってやりましょう。屋根をつけたり、木からつるしたり、いろいろなデザインを考えながらつくるのは楽しいものです。休日なら、お父さんといっしょに——。

●ひとりでつくれる簡単なエサ台



ポイント(設置の注意)

①ネコなどが飛びつけない場所を選ぶ。②いちど置く場所をきめたら動かさない。③エサはいつもあるように、絶やさない。④観察するときは、おどろかさない。⑤自然のエサがある春〜夏にかけて、だんだんエサをへらしてゆき、自然のエサがなくなる冬が来るまでエサをやるのをやめよう。

脂身は、カラスが狙うので、カラスが庭に来るようになってしまったら、一時止めることも大切です。

巣箱のつくりかた

巣箱はもともと、木の洞や岩のすき間などに巣をつくる鳥たちに、繁殖の場所を提供するものです。身近な鳥ではスズメ、ムクドリ、シジュウカラがよく利用します。

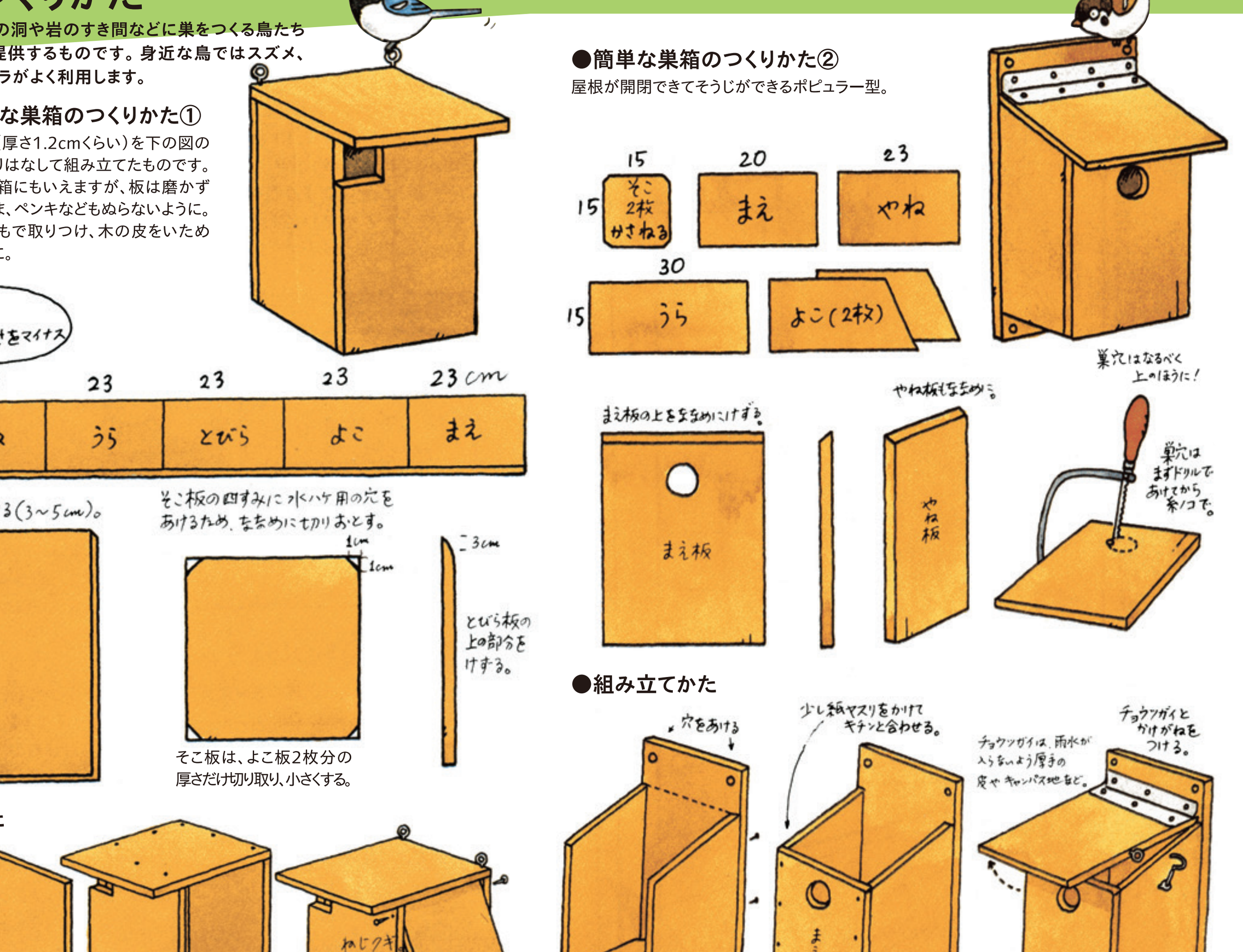
●簡単な巣箱のつくりかた①

1枚の板(厚さ1.2cmくらい)を下の図のように切りはなして組み立てたものです。どんな巣箱にもいえますが、板は磨かずにそのまま、ペンキなどもぬらないように。木にはひもで取りつけ、木の皮をいためないように。

●簡単な巣箱のつくりかた②

屋根が開閉できてそうじができるポピュラー型。

●組み立てかた



●つくりかたのポイント

①鳥によって箱の大きさや巣穴の大きさ(左頁を参考に)がちがいます。ムクドリ用の巣箱でしたら、全体にもう3cm大きめに作ってください。
②形や大きさは自然の洞などを利用しているくらいですからあまりこだわりません。
③ムダな飾りや巣穴の前のとまり木などは必要ありません。とまり木はヘビなどの天敵が入りやすい足場にするようなものです。
④風雨にさらされてもまがったりしない板を使い、スキ間なくがんじょうに作りましょう。
⑤ただし、底板には水ヌキの穴を小さくあけて(1cm)おきましょう。

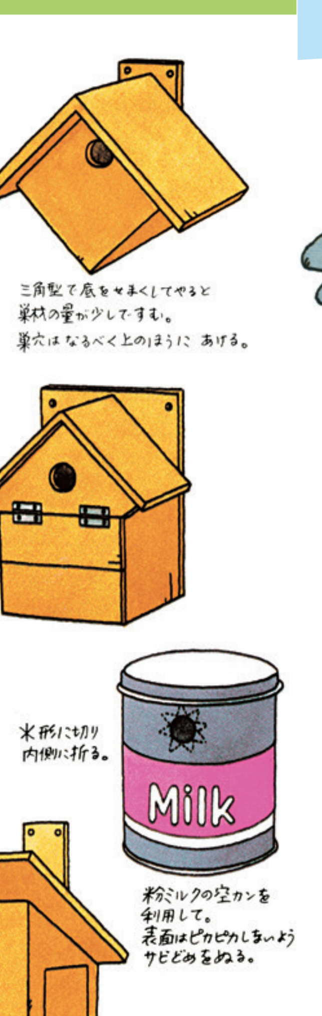
•鳥によって巣穴の大きさがちがうよ!

シジュウカラ	スズメ	ムクドリ
2.8cm	3cm	5cm

いろいろな巣箱を工夫しよう

●かけるときのポイント

①スズメやムクドリなら、家やベランダでもOK。庭にかけるときはネコが飛びつけない高さ、または登れないように木や支柱にトタンやビニールパイプを巻きます。公園などでは人にいたずらされないよう2m以上の高さに。
②木にかけるときは、あまり枝がこんでいない、雨が降りこまない、少し下向きになる幹にかけます。巣箱をとりつけるには、木を痛めないシュロなわなどを使いましょう。
③かける時期は1〜3月頃まで。冬のネグラとして使われれば、繁殖をする確率が高くなります。
④秋から冬にかけて、調査と補修をかねてそうじをしてやりましょう。
⑤巣箱には思ったほどは入らない。入ったらもうけもの…くらいの気持ちが大切です。
⑥あまりあちこちに集中してかけないで。とくにシジュウカラはナワバリを持っているのでたくさんかけても入るのはひとつくらい…



水場のつくりかた

飲み水として、水浴びをする場所として利用できる水場を作っておくと、一年中、鳥を寄せることができます。

●池がすでにある場合

ふつうの池は、鳥には深すぎたり、とまり木がなくて利用できません。ブロックやレンガを沈めて浅いところを作ったり、とまり木のための枝を置いてやりましょう。

●新しく水場をつくる

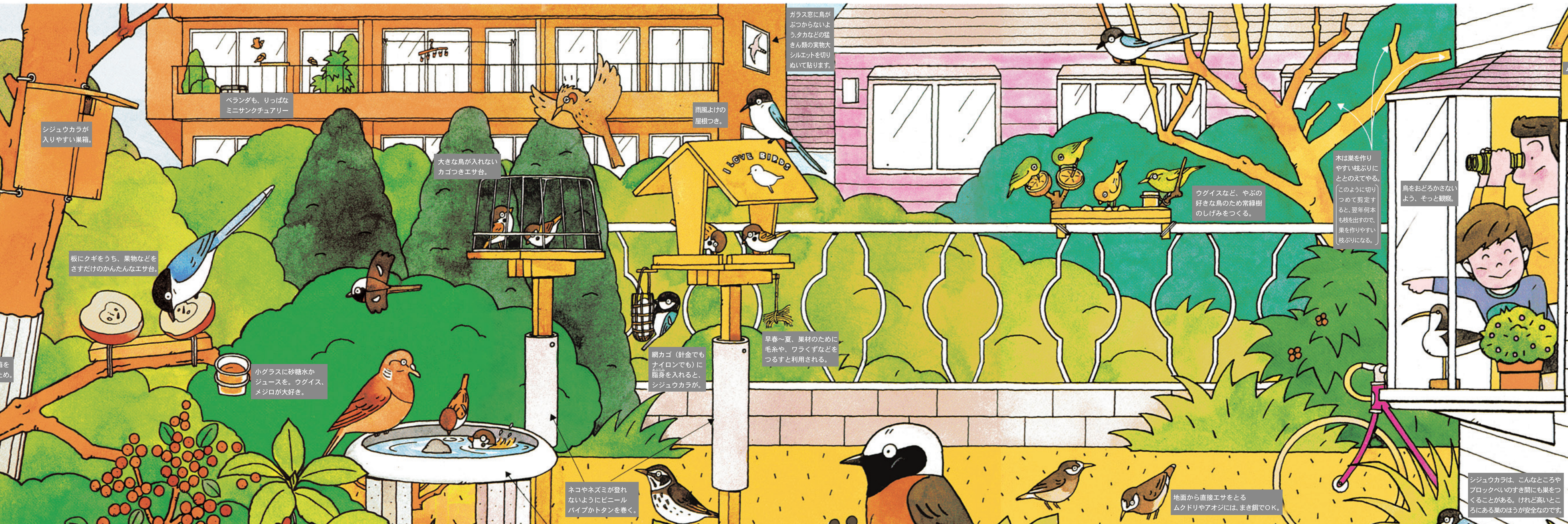
浅い所から深い所へと変化をつけてやると、大きなキジバトから小さなメジロまで利用します。

●水盤やバットでもりっぱな水場です

生け花用の水盤、写真の現像に使うバットなど、浅い容器もOK。浅い穴を掘ってビニールを敷いただけの水たまりでもよいのですが、石など自然の材料のほうがすぐ利用される。

●ポイント

①ネコなどが近づいたらすぐ鳥たちにわかる場所にする。
②水はときどき入れかえて、よごれないように。
③冬は水場が凍らないように気をつける(周囲の水が凍って利用できないときほど必要)。
④地面より高くすると利用されやすい。



鳥の好きなエサと実のなる木

エサの種類 / トリの名前	パン	ゴハン	ヒエ・アワ	ヒマワリ	牛脂	ジュース	ピーナツ	ピラカンサ	ヤツデ	アオキ
スズメ	○	◎	◎	○			○			
シジュウカラ				◎	◎		◎			
ヒヨドリ	◎	○			○	◎	○	◎	○	◎
カワラヒワ			○	◎				○		
ムクドリ	○	○						◎	○	○
ウグイス					○	○				
メジロ					○	◎		○		
ジョウビタキ								◎	○	
キジバト	○	○	○	○			○	○		

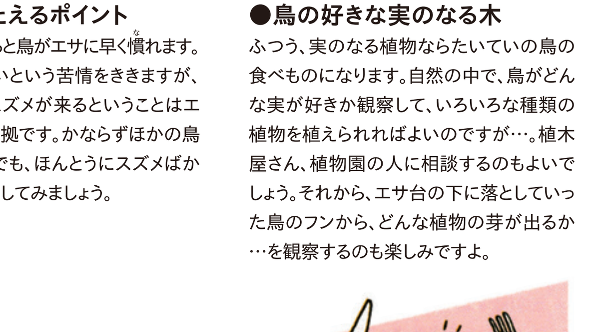
○好き　◎大好き　※オナガ、ヒヨドリはいろいろなものを食べます。

●エサをあたえるポイント

雪の日から始めると鳥がエサに早く慣れます。スズメしか来ないという苦情をききますが、警戒心の強いスズメが来るということはエサ台が安全な証拠です。かならずほかの鳥も来るでしょう。でも、ほんとうにスズメばかりかな?よく観察してみましょう。

●鳥の好きな実のなる木

ふつう、実のなる植物ならたいていの鳥の食べものになります。自然の中で、鳥がどんな実が好きか観察して、いろいろな種類の植物を植えられればよいのですが…。植木屋さん、植物園の人に相談するのもよいでしょう。それから、エサ台の下に落としていった鳥のフンから、どんな植物の芽が出るか…を観察するのも楽しみですよ。



庭にくる野鳥 ミニ・フィールドガイド

スズメばかりと思っていたのに、よく見ているといろんな野鳥が身のまわりに来ています。どんな鳥がいるか、調べてみよう。

●ジョウビタキ・冬鳥。15cm。ヒッヒッ、カッカッ。

●スズメ・留鳥(一年中ほぼ同じ場所にいる鳥のこと)。全長(くちばしの先から尾の先まで)14.5cm。チュンチュン。

●ムクドリ・留鳥(九州より南では少ない)。24cm。鳴き声チッ、ジェー、キュル

●ヒヨドリ・留鳥。27cm。ピーヨピーヨ。

●オナガ・留鳥。36cm。ゲェーイ、キュイキュイ。

●アオジ・留鳥(冬は雪のない地方へ)。16cm。チョッピンチロロ、チーチョロロリー。

●シジュウカラ・留鳥。14cm。ツーピーツーピー、ジュクジュクジュク。

●ウグイス・留鳥(冬は雪のない平地へ)。オス16cm、メス13cm。ホーホケキョまたはケキョケキョとさえずり、冬はチャッチャッ。

●メジロ・留鳥(北日本では夏、渡ってくる)。12cm。チーチュルピーチュルくりかえし。

●カワラヒワ・留鳥。14cm。キリコロキリコロ、ビィーン。

●キジバト・留鳥。33cm。デデッポーポー。

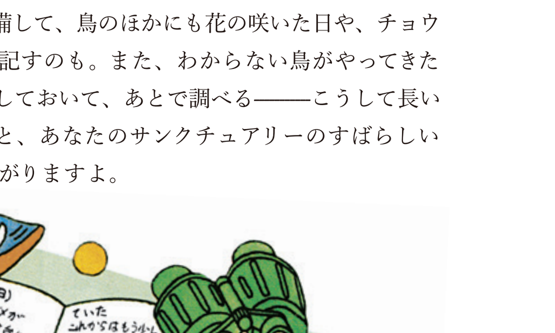
●ツグミ・冬鳥(冬、北の国から渡ってくる)。24cm。クイクイ、キイキイとふた声ずつ。

●ベランダはサンクチュアリーの原点だ

「ひさし」がついているベランダでは、エサ台に屋根をつけなくても大丈夫です。また、場所を選べばじかにエサをまいてもOK。水場は浅いものなら水盤でもプラスチックのお皿でも何でも工夫しだい。実のなる木は、鉢植えのピラカンサやナンテンでもよいでしょう。高い階の場合、ベランダの外側にエサ台を出して、下の階にめいわくをかけないように。こうして、都会の中でもその気になればちゃんと小鳥を呼ぶことができます。そしてそれは、たとえ小さくてもサンクチュアリー(野鳥の聖域)なのです。

●観察日記を付けよう

はじめてウグイスがさえずった日、ツバメの姿を見つけた日、ツグミがいなくなった日、そして休みの日などに、いつもやってくるスズメの、「朝・昼・夕」の数など、何でも何でも。カレンダーや家計簿のかたすみに書いてもよいのです。専用ノートを準備して、鳥のほかにも花の咲いた日や、チョウのおとずれなど記すのも。また、わからない鳥がやってきたら、特徴をメモしておいて、あとで調べる——こうして長い間つづけていくと、あなたのサンクチュアリーのすばらしい自然暦ができあがりますよ。



サントリーの愛鳥活動

Today Birds, Tomorrow Humans.

「いちばん大切なものを、未来へ」
—想いは鳥へ向かう—

今日、鳥たちを襲う不幸は明日、人間の身に降りかかるかもしれない。鳥たちに起こる幸福は、明日の人間を幸せにするかもしれない。

サントリーはそんな想いをもって1973年からこの活動を続けています。野鳥を見つめ、環境を知る。その気づきを通じて、鳥や人、さらにはすべての生きものが豊かに暮らせるフィールドを明日に届ける。

それがサントリーの愛鳥活動です。

日本の鳥百科 パソコン スマートフォン

きれいなイラスト&解説付きの鳥辞典。鳥の鳴き声も200種以上聞くことができます。見て聞いて読んで楽しみながら愛鳥活動にご参加ください。

ホームページ ▶ http://suntory.jp/BIRDS/

愛鳥活動 検索

イラストレーション・水谷高英　監修・柳澤紀夫 元(公財)日本鳥類保護連盟 理事

(2019年11月現在)